

3-2. リサイクルの推進

(1) 現況と課題

本町では、人口の増加とともにごみ処理量は増加の一途をたどり、ごみの減量化とリサイクルの推進は避けられない状況にあります。このため、平成7年10月に可燃ごみ指定袋（有料化）を導入し、平成12年3月には生ごみの分別収集を実施して、可燃ごみの減量化やリサイクルを推進してきました。現在では、可燃ごみ、不燃ごみ、ペットボトル、古紙、生ごみなど合わせて8種類12分別による収集を行っています。これらの取組みにより、一時的に可燃ごみは減少しましたが、再び増加傾向にあるため、更なる取組みが課題となっています。

今後も、「エコ・ハウスたかねざわ」を効果的に活用して環境教育を普及させるとともに、ごみ減量化の浸透や新たなリサイクルの仕組みを検討し、資源循環型社会*を構築していくことが重要です。

また、平成24年度に本町に建設される次期環境施設（ごみ処理施設）は、平成21年度から工事着手される予定です。関連施設の検討にあたっては、広範な分野にわたる施策との整合について協議が必要となります。

(2) 5年間の政策目標

- ①ごみ減量化や分別を徹底し、資源循環型社会*を実現します。
- ②リサイクル総合計画を策定し、各品目の有効なリサイクル方法を確立します。
- ③「エコ・ハウスたかねざわ」を活用し、環境学習・リサイクル活動を普及させます。

(3) 施策

3-2-1. リサイクル総合計画の策定と運用

生ごみ、可燃ごみ、古着、剪定枝、発泡スチロール、ペットボトルなど多岐にわたるごみについて、各品目別の有効なリサイクル方法を示した総合的なリサイクル計画を策定します。特に懸案となっている廃プラスチックについては、有効なリサイクル方法を研究し運用を図っていきます。資源循環型社会*の実現に向けてリサイクル体制を強化し、地域と協力した効果的な運用を図ります。

指標	平成16年度	平成22年度
可燃ごみのリサイクル率 (単位：%)	33%	40%

【事業】

- リサイクル総合計画の策定と運用
 - └ リサイクル推進事業費
 - └ 剪定枝等資源化事業費
 - └ 資源ごみリサイクル事業

【関連施策】

- 4-1-1 循環型農業への取組み推進
- 5-1-3 体験(自然・社会・生活)学習の充実

3-2-2. 環境学習の充実

「エコ・ハウスたかねざわ」を環境学習やリサイクル活動の中心的施設と位置付け、住民に親しみやすい環境学習の機会を提供し、リサイクル活動の参加者拡大を図ります。

(4) 効率化目標

①広域行政による環境施設の整備

現在稼働中の塩谷広域行政組合ごみ処理施設の使用年限が、平成 24 年 11 月であることから、本町に建設される次期環境施設（ごみ処理施設）の整備を推進しています。当環境施設の整備を支援し、効率的なごみ処理・リサイクルを実施します。

指標	平成 16 年度	平成 22 年度
事業の進捗率 (単位：%)	0 %	5 0 %

(5) サービス向上目標

- ・町ホームページ、広報、チラシ等あらゆる媒体を用い、リサイクルの推進、分別の徹底を呼びかけていきます。
- ・ごみステーションの新設を推進し、ごみ・資源を排出しやすい環境をつくれます。
- ・「エコ・ハウスたかねざわ」の機能強化や利用促進を支援し、環境学習やリサイクル活動を推進します。